

# TRIZの範囲

TRIZは以下を目的とする方法ならびに各種のツールを開発するために工学的システムおよびその他の人工的システムの進化について研究する実践的な学問です。

- 対象とするシステムが固有の進化のパターンに沿って進化するように調整し、もっとも効果的な発展をうながす
- 障害や課題を有効かつ迅速に克服してシステムを発展させる
- 以下について人の能力を育成する：
  - 優れた革新を実現する
  - 効果的・創造的に思考する

# TRIZの時代区分

時代区分	特徴
古典的TRIZ	ゲンリフ・アルトシューラおよび彼の弟子達によって開発され、アルトシューラによって承認されたTRIZ。 (1940年代半ばから1980年代半ば)
新しいTRIZ	旧ソ連におけるペレストロイカの時代に始まったTRIZ。 (1980年代半ばから現在まで) 古典的TRIZとの主な相違点は以下の3つである。： <ul style="list-style-type: none"><li>• 単に技術上の問題を解決することだけでなく、実務／事業での活用に焦点を当てている。</li><li>• 発明アイデアよりも実際の革新的製品・技術の開発に焦点を当てている。</li><li>• 国際的・世界的視点。</li></ul>

# 改訂案（1－3）

	古典的TRIZ	新たなアプローチ
1	人々は発明を必要としている。 発明は単なる改良よりも常に優れている。	人々は自分の目的を達成するために問題が解決されることを必要としている。多くの場合、発明が無くても目的の達成は可能である。
2	高度の発明は水準の低い発明より優れている。	発明の価値はそれが市場に与える利益とコストとのかねあいによって決定する。
3	TRIZの主な使命は最高の発明を可能にすることである。	TRIZの主な使命はシステムの進化が市場に最大の価値をもたらすように調整することである。

# 改訂案（4－5）

	古典的TRIZ	新たなアプローチ
4	TRIZは特許ならびに技術の歴史に現れている知識に基づいて創成され、今後も開発されていかななくてはならない。	TRIZの開発は、TRIZを用いて実現されたものを含めて、イノベーション（市場での価値が確認された革新）に基づいて行われなくてはならない。
5	TRIZは試行錯誤や心理学に基づく創造性刺激手法とは何ら共通点を持たない独立した方法であり、これらとは一切併用するべきでない。	TRIZはそれぞれの分野で有効性を持つ他の最良のイノベーション技術を活用（および、必要に応じて吸収）しなくてはならない。

# 改訂案（6－8）

	古典的TRIZ	新たなアプローチ
6	問題を解決する際には唯一最良の解決策を求めるようにしなくてはならない。	問題を解決する際には可能な（できれば、全ての）解決策を幅広く検討しなくてはならない。
7	解決策は理想に近いものでなくてはならない。（“global ideality”）	現実の状況下で入手可能な資源に即し、短期、中期、長期的ニーズおよびリスクを踏まえて最善の解決策を選択しなくてはならない。（“local ideality”）
8	TRIZは矛盾を明らかにし、それを解決することに焦点を当てなくてはならない。	イノベーションは矛盾の解決でなくてはならないわけではない。TRIZはアイデア発想だけでなく、問題の特定、定式化（再定義）、付随的問題の特定と解決、解決策案の評価、解決策の実行計画を含む問題解決の全過程において方法とツールを提供しなくてはならない。

# 改訂案 (9-11)

	古典的TRIZ	新たなアプローチ
9	技術の進化はシステムの進化の諸法則によって完全に決定される。法則に従えば必ず成功する。	技術、事業、市場の進化のパターン、ライン、トレンドに即したイノベーションが成功を収める。
10	進化の法則は高度の発明のみに基づいて明らかにしなくてはならない。	進化のパターンは大幅な革新から小さな改良までを含む進化の全ステップを踏まえたものでなくてはならない。
11	技術分野を対象とするTRIZの開発は完了した。TRIZにかかわる者は全員創造的個人育成の研究に従事すべきである。	技術分野を対象とするTRIZは発展途上にある。